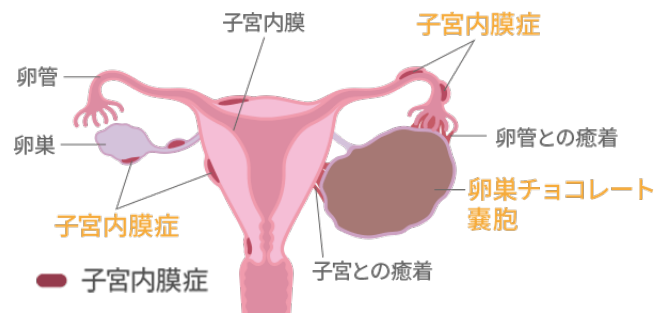


月経困難症とは、月経期間中に月経に関連して起こる病的な症状のことです。いわゆる生理痛(月経時の腹痛・腰痛)だけでなく、頭痛、嘔気、下痢、倦怠感、抑うつ、いらいら感などの諸症状を含みます。思春期以降の女性では、排卵を中心にホルモンのリズムが作られ周期的な月経が起こります。それはもちろん異常ではないのですが、今妊娠を望まない女性にとっては負担になってしまうことも多いのです。月経前のホルモンの変化や月経の出血に伴って月経前から月経時の諸症状を引き起こします。

Q1. 月経痛の原因はなんですか？

大きく分けて機能性月経困難症と器質性月経困難症に分けられます。機能性というのは子宮や卵巣に原因となる異常が全くない場合です。器質性というのは子宮内膜症、子宮腺筋症、子宮筋腫などの異常を伴う場合です。月経痛がある女性



性では子宮内膜症などが潜んでいて徐々に悪化していく場合もあり、やみくもに放置すべきではありません。

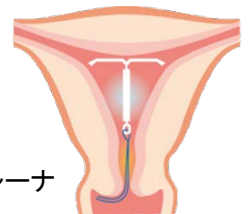
Q2. 月経痛は治療でよくなりますか？

月経困難症は治療で改善することができます。軽症の場合には月経時に鎮痛剤などを服用することで痛みを軽減できます。さらには症状の程度を問わず治療用の低用量ピルを服用することで、痛みだけではなく出血量や関連する諸症状を大幅に改善することができます。中学生以上～40歳代女性までほとんどの患者さんに勧められます。



治療用ピル

またプロゲステロンホルモンを含む子宮内避妊器具(ミレーナ)を挿入することで、月経痛や過多月経を改善する方法もあります(別にパンフレットがあります)。

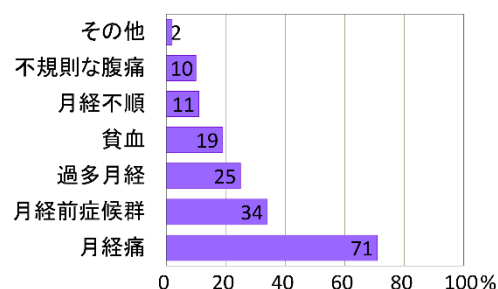


Q3. 低用量ピルとはどのような薬ですか？

女性ホルモン(エストロゲン・プロゲステロン)を含む内服薬で、月経や排卵を抑制するぎりぎりの薬剤量に調整されているものです。取り扱いの違いにより避妊用と月経困難症治療用とに分けられます。どちらも避妊と月経困難症改善の効果がありますが、日本では目的によって使い分けられています。月経困難症の症状があれば、適切な診断や検査のもと治療用ピルによる管理を受けた方がよいでしょう。最近では月経の間隔を2～4か月おきにする事ができる治療用ピルもあり、より一層月経に伴う不調を軽減することができます。

Q4. 中高生でもピルは使えますか？

女子中高生において、月経痛などは学校生活に悪影響を及ぼしています。中高生でもピルなどを服用し治療することで月経を整え症状を改善できます。結果として生活の質が改善し学業・課外活動・スポーツなどの成績の向上につながるでしょう。



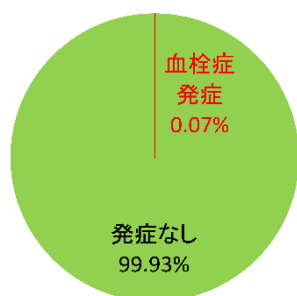
中高生女子の学業・運動に影響を与える月経関連症状 (スポーツ庁 2016年)

Q5. 副作用はありませんか？

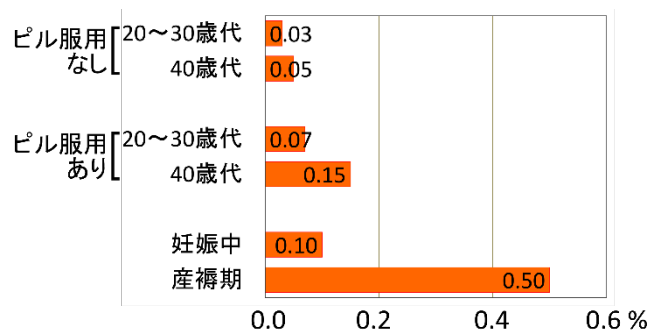
最も多い副作用は服用開始直後の嘔気です。しかしほとんどの方はしばらくすると薬に慣れて落ち着きます。重大な副作用は血栓症(深部静脈血栓症・肺梗塞・脳梗塞等)ですが発生頻度は0.07%程度とごくまれです。しかし習慣的喫煙や肥満があると血栓症のリスクが2~3倍に増加してしまうため注意が必要です。

また前兆を伴う片頭痛のある方では脳梗塞等のリスクが増加するためピルは服用できません。

服用をやめた後は排卵や月経周期はもとに戻ります。ピルの副作用で不妊になることはありません。



ピル服用中の血栓症発生頻度(概算)



ピル服用の有無や妊娠と血栓症発生頻度の関係(概算)

Q6. ピルの薬代は高いですか？

当院では避妊用ピル1シート(1か月分)を税込1900円から販売しています。治療用のピルはジェネリック医薬品で月700円程度、先発品で2000円~2500円程度です(3割負担の場合)。それぞれ他に診察代・検査代が定期的にかかります。月経困難症などの治療目的であれば、保険適用で適切に管理しています。

Q7. 月経前の体調不良を治す方法はありますか？

月経前症候群(PMS)といって月経が近づくと倦怠感、抑うつ、いらいら感、頭痛などの諸症状が強くなる方がいますが、症状に応じて治療できます。漢方薬が効果的なことも多いですが、月経困難症と併せて治療用ピルを服用することでほとんどの患者さんにおいて症状が改善します。

以上、よく聞かれる疑問点を中心にお答えしました。

月経痛や月経に関連する体調不良など、悩むことがあれば是非相談してください。